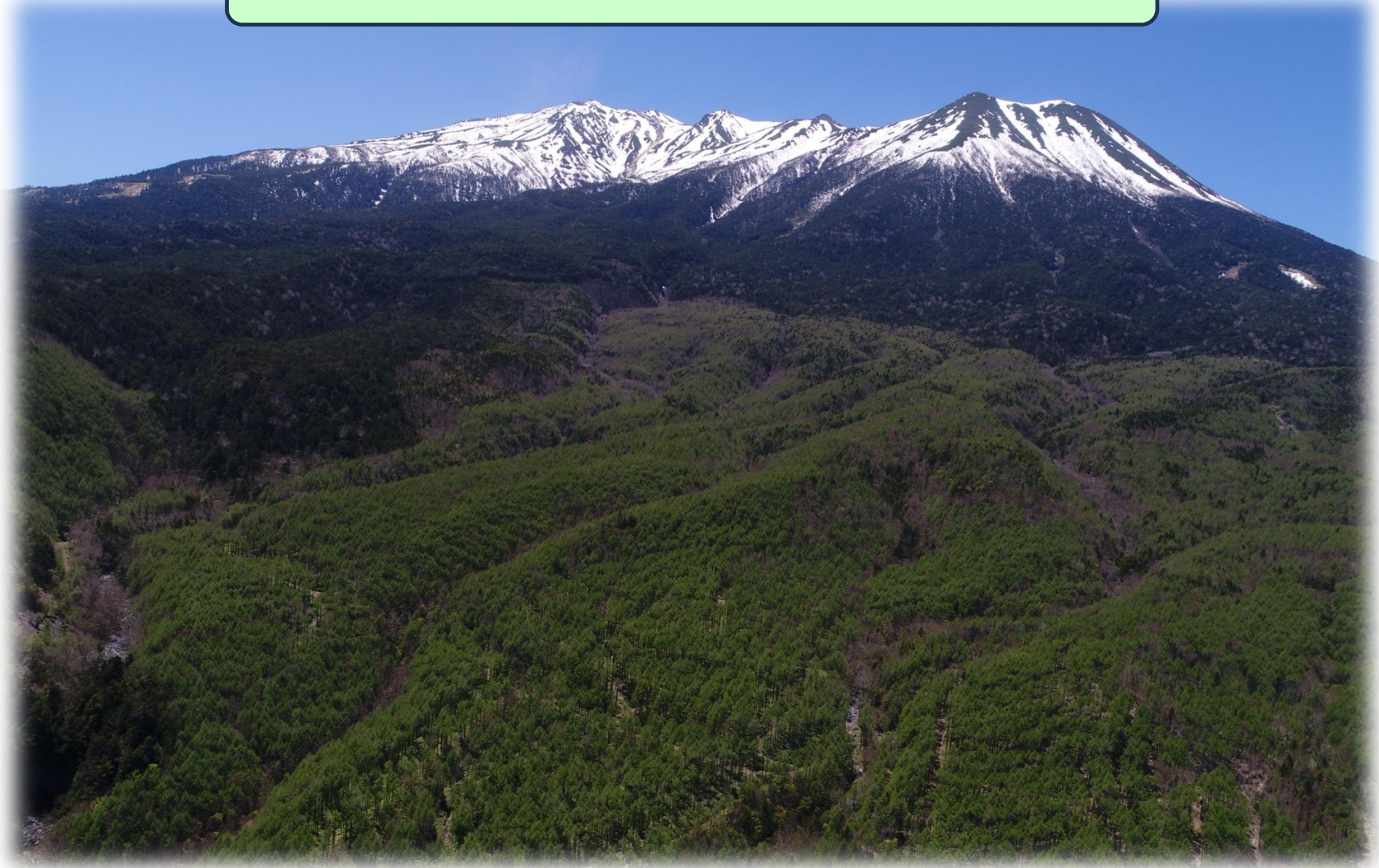


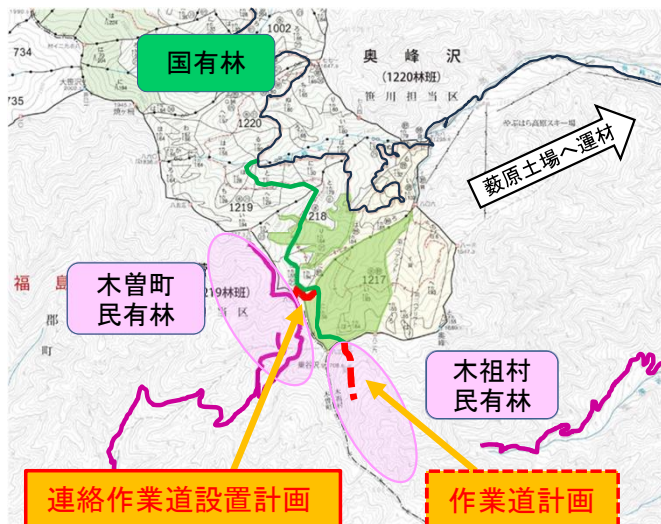
令和8年度 木曾森林管理署 事業概要



令和8年度 木曽森林管理署の取り組み

① 民有林との連携の推進

流域を一つにする「木曽谷流域森林整備推進協定」に基づき、民有林と国有林が連携した森林整備を推進できるよう、国有林林業専用道を基幹とした路網整備を推進します。



② 治山事業の推進

地域の安全・安心を確保するため、事前防災や減災対策を推進します。



木曽町 山腹工



木祖村 溪間工

災害で傷ついた森林は、そのままにしておくと傷口が治らず、もっとひどくなってしまいます。そうすると、私たちに恵みを与えてくれる森林が消えていくばかりか、いつまた災害の危険にさらされるかわからない不安定な状態になってしまいます。

傷ついた森林は、手当てをして、一日も早く安全な状態に戻さなければなりません。そのために治山事業が行われています。

③ 木の文化の継承

令和8年5月17日上松町赤沢姫宮において仮御樋代木伐採式が行われます。伊勢神宮の式年遷宮で使用される御神木は「三ツ紐伐り」といわれる方法で伐り出されますが、斧を使用する方法は林業関係者でも触れる機会が稀であり、次世代へ継承したい方法です。「木の文化」を支えるため伝統的な林業技術の継承に協力していきます。



令和7年6月3日 第63回神宮式年遷宮御杣始祭(小川入国有林)

④ 現場説明会の開催

森林面積の占める割合が高い木曽谷では、森林の様々な機能が地域社会においても重要な役割を果たしています。国有林の果たす役割について、地域住民等へ紹介する説明会を実施します。



木祖村 数原土場のカラマツ



木曽町 ABIMORIイベント植樹



王滝村 御嶽山の開山祭



上松町 赤沢自然休養林

木曽谷森林計画区の森林の概要①



当地は、長野県南西部に位置し、木曽川を挟み御岳山と木曽駒ヶ岳の三千m級の山に囲まれ、その流域は急峻、地質は脆弱です。

国有林は、人工林約39%、天然林約61%、天然性の木曽ヒノキ、サワラ、ヒバ、ネズコ、コウヤマキ(木曽五木)と人工林ヒノキは日本の歴史的木造建築物の補修資材や伝統工芸品の原材料に使用されるなど高品質な木材として知られ、冷涼な気候で育つ人工林カラマツは強度に優れています。

世界的に見ても貴重な資源である天然性の木曽ヒノキをはじめとする温帯性針葉樹林は「木曽悠久の森」として保護・復元に取り組んでいます。

森林浴発祥の地、「赤沢自然休養林」、その木曽ヒノキ林は、日本三大美林の一つで森林セラピーや、教育、研究等の場として多くの方々を向かえています。

木曽谷流域の面積 155千Ha

木曽谷の森林面積 144千Ha

森林率 93%

(内国有林 89千Ha)

木曽路はすべて山の中である
(島崎藤村の長編小説「夜明け前」より)

木曾谷森林計画区の森林の概要②

森林の特徴と自然的背景

- ・当流域の森林の多くが山岳地帯にあり地形が急峻、木曾川左岸及び南部は脆弱な地質に加え降水量も多いことから、崩壊が発生しやすいえ、山地と集落が非常に接近している。
- ・近年は平成26年の御嶽山噴火災害、令和3年5月8日の豪雨災害や地震等自然災害が多発。



平成26年御嶽山噴火災害



木曾谷流域は降水量が多く
地質が脆弱



昭和59年長野県西部地震

- ・木曾川水系は発電用水とともに、中京圏の重要な水源地帯となっており、公益的機能の発揮が高度に要求される地域。
- ・流域内二つの自然公園や、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林等、森林レクリエーション資源も豊富。



当地域は中京圏の重要な水源地
味噌川ダム【木祖村】など

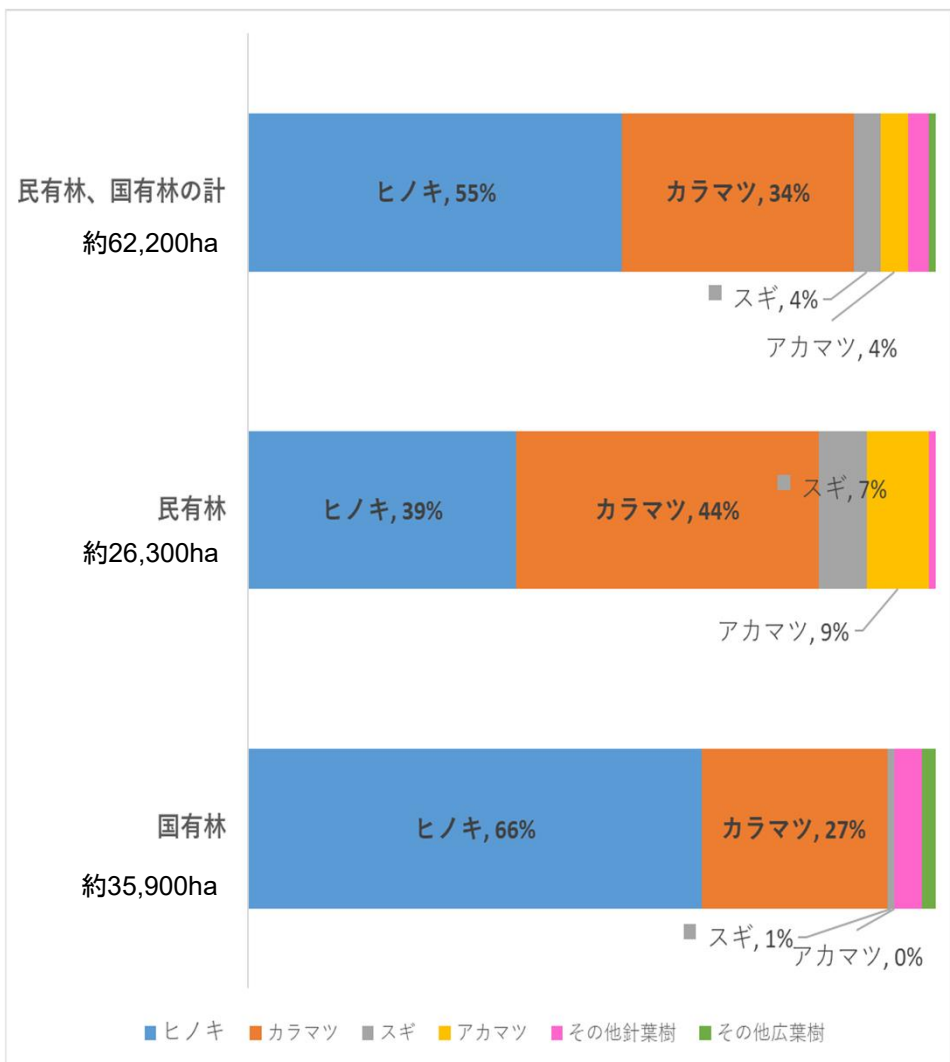


豊かで優れた自然景観が地域の観光資源となっている
赤沢自然休養林【上松町】、御嶽山と木曾馬オブジェ【木曾町】、自然湖【王滝村】など

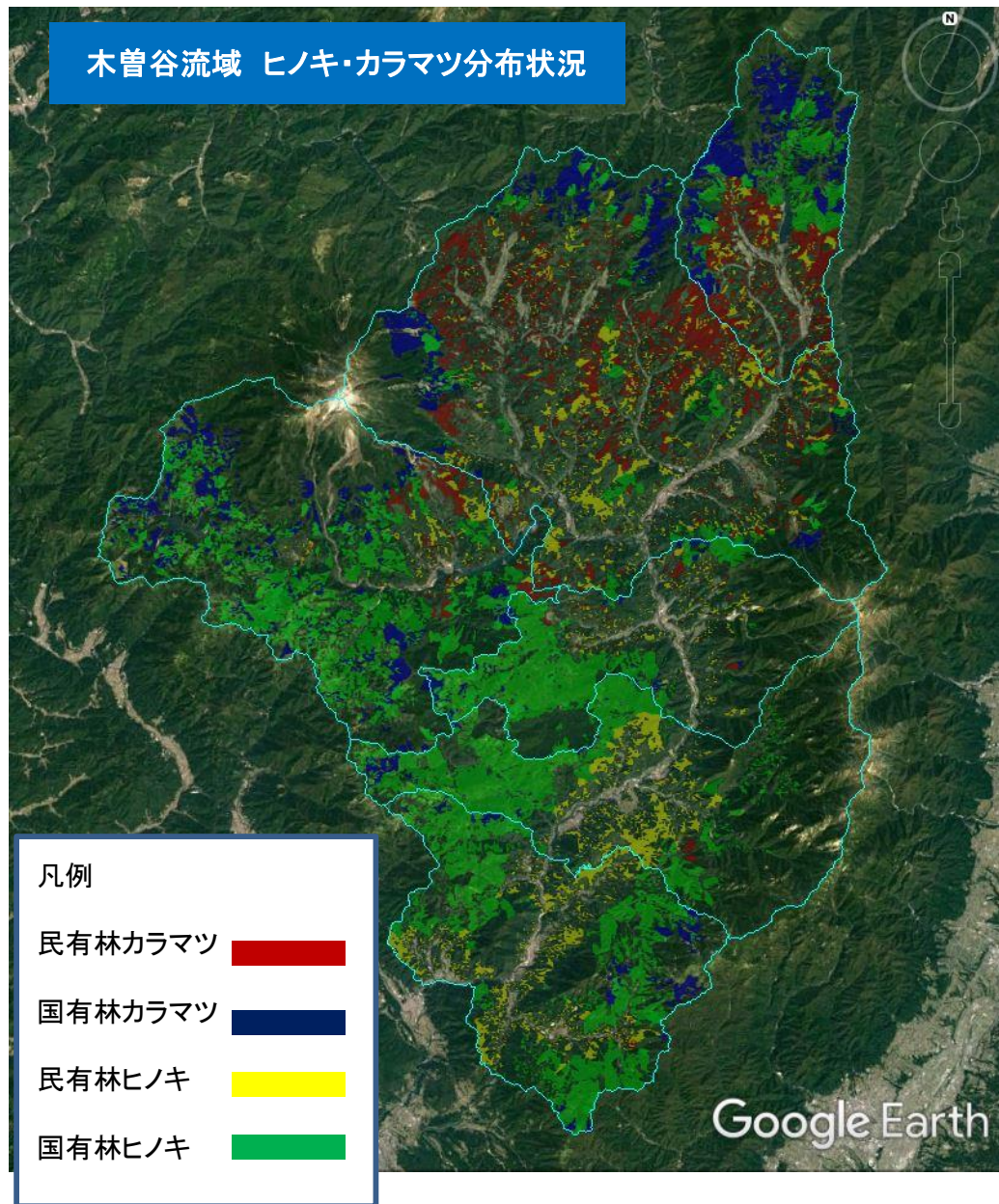


木曽谷森林計画区の森林の概要③

人工林の主要樹種別割合



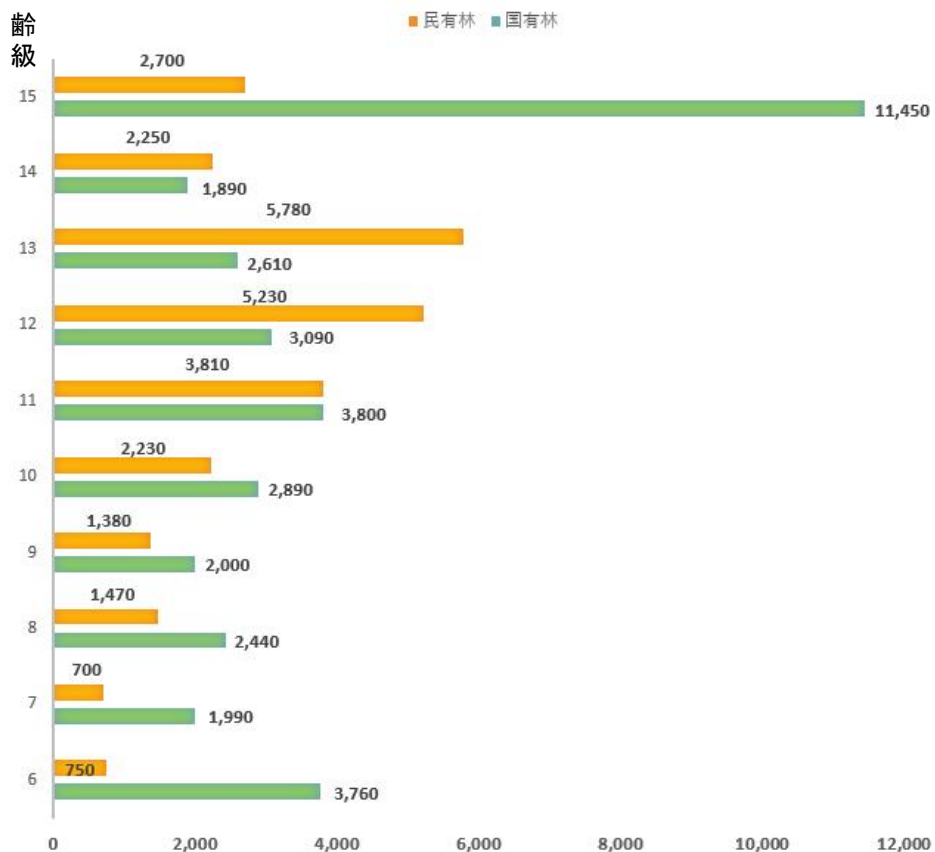
木曽谷流域 ヒノキ・カラマツ分布状況



木曽谷森林計画区の森林の概要④

人工林の年齢構成

単位: ha (10ha単位に調整)



年齢級について

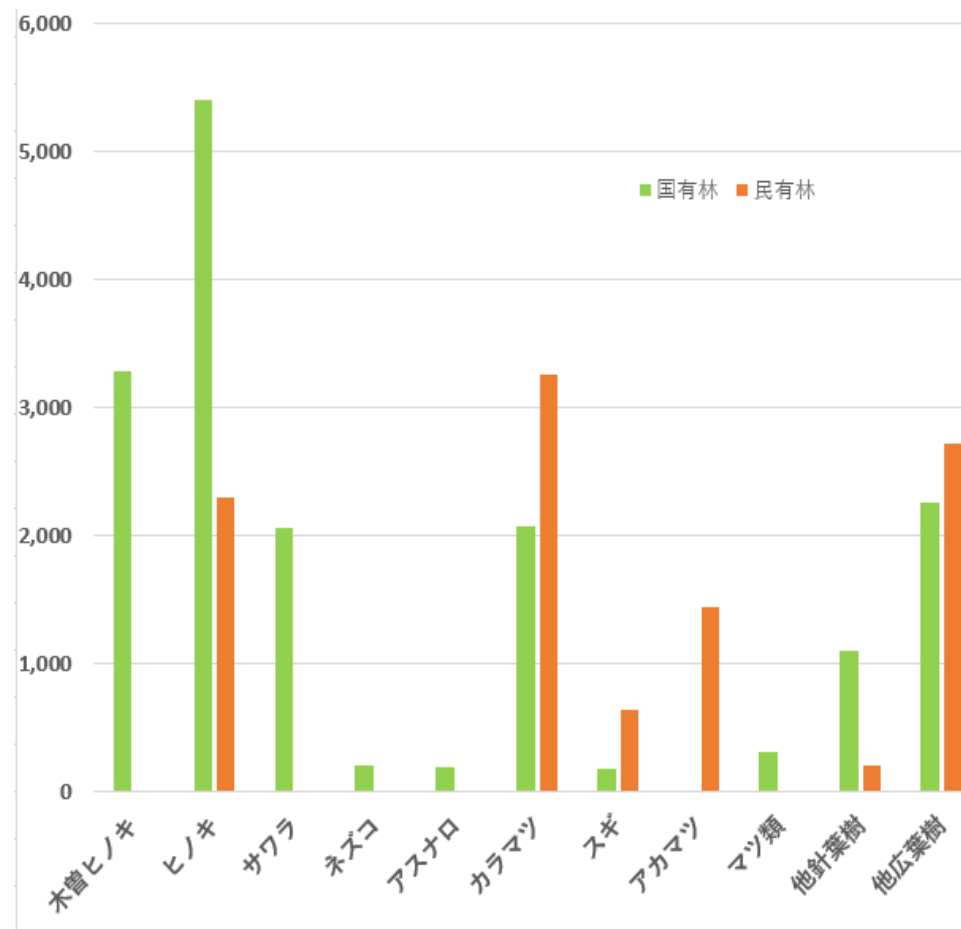
林業で森林の年齢を5年を1年齢として計算する方法です。

6年齢級以下は30年生以下で、15年齢級以上は75年生以上の人工林になります。

利用伐期齢50年は10年齢級以上となります。(50年÷5年=10)

主要樹種別蓄積量

単位: 千m3



木曽森林管理署管内国有林の管理経営

1 公益重視の管理経営の一層の推進

① 計画的な森林整備の推進

※事業量について令和8年度は当初予定 令和6・7年度は年度は実績

- ・森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、「地域別の森林計画等」により計画的に間伐や、主伐、そして更新(植林)を行っています。
- ・森林整備に必要な路網(林業専用道等)の整備と併せ、橋梁等既存施設の長寿命化対策も並行して進めます。



架線集材
【王滝村】

路網整備の主な事業量			
(単位:m)			
年度	林業専用道 新設	林道 改良	林道 災害復旧
6	560	2,024	0
7	725	149	73
8	0	292	224

森林整備の主な事業量				
(単位:ha)				
年度	植付	下刈	除伐	間伐
6	21.6	0	1.2	189.9
7	7.0	12.3	7.1	137.8
8	17.2	10.8	25.0	142.6



材木、機械を運ぶために必要な林業専用道【木祖村】

② 治山対策の推進

- ・近年の地震・集中豪雨等による山地災害の発生、そのリスクが一層高まると予測され、治山事業は次のことを推進します。
- ・自然災害等で荒れた山地を森に回復し、保安林の水土保持機能等を強くします。
- ・地域の安全・安心を確保するため事前防災・減災対策を推進するなど、国土強靱化対策や既存施設の長寿命化対策を推進します。

治山事業の主な事業量

年度	溪間工(基)	山腹工(ha)
6	6.0	1.4
7	4.0	1.3
8	1.5	1.4



工事前

土石流によって荒廃した溪流や、荒廃の恐れのある溪流について、ダムを設置するなど、安全できれいな流れの川にするための工事を行っています。【木祖村】



工事後

③生物多様性保全の推進

森林生態系の生物多様性を保全するため溪流沿い等の森林の保全、「保護林」の保護・管理等の推進、巡視活動を行うとともに、高山植物等保護や自然再生事業を推進します。

「木曽悠久の森」と木曽生物群集保護林

「木曽悠久の森」はヒノキ、サワラ等を主体とする温帯性針葉樹林を厳格に保存・復元する取組を進めるとともに、その一部について木曽生物群集保護林に設定しました。



黒沢御岳国有林の油木美林
【木曽町】



多様性が保全された豊かな溪流
沿いの水木沢天然林【木祖村】



貴重な木曽ヒノキ林【上松町】

④野生鳥獣被害対策の推進

- ・野生鳥獣による森林被害の防止対策のため、長野県木曽地域振興局、各町村、各猟友会等との情報共有に努め連携を推進します。
- ・ニホンジカは生息範囲を拡大させていることから、センサーカメラにより広域的な生息状況の把握・分析を実施し、猟友会と締結している「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定」等により対策を進めます。



カモシカ等からの植林木保護は、効果的に忌避剤や柵で対策を行います。



センサーカメラで撮影されたニホンジカ



センサーカメラで撮影されたカモシカ

⑤災害時の県市町村との連携

- ・ 地震や豪雨災害(台風、線状降水帯の襲来)が発生した場合は迅速な対応が求められます。
- ・ 当署と管内町村とは、「山地災害発生時等の連携に関する協定」を締結しており迅速に行動できる体制があります。



地震・豪雨災害発生したら

- ・ ヘリコプターやドローン、そして人による現地調査、衛星写真の解析情報等により、被害(林地や林道施設等)の状況を把握をします。
- ・ 早期復旧に向け、応急復旧しつつ、調査設計、復旧工事を行い林地や施設の復旧を図ります。
(被害規模が大きいと復旧工事完了まで複数年かかる場合もあります。)
- ・ 実行中の森林整備等の事業調整は並行して行います。

「山地災害発生時等の連携に関する協定」内容 (木曾町・上松町・木祖村・王滝村)

- ① 町村へ連絡員(リエゾン)の派遣
- ② 国有林のヘリコプターによる調査を県・町村と合同調査の呼びかけ
- ③ 町村の現地調査へ職員の派遣
- ④ 救助、物資輸送に国有林道の活用
- ⑤ 緊急物資の提供
- ⑥ 災害廃棄物の一時仮置き場の提供 等



集落の孤立等あった場合に、国有林林道を経由した通行を積極的に支援します。【王滝村】

2 森林・林業施策全体の推進への貢献

①新しい林業の実現に向けた効率的な施業の推進

伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けて、伐採・造林一貫作業システム、下刈り回数削減、D材搬出・販売による、地ごしらえ作業の軽減等により、トータルコスト縮減を目指し、民有林への普及啓発を実施します。

D材＝枝や、木の梢端、根株など従来の林地残材(未利用材)を指します



架線集材

現地に応じた多様な集材方法



スイングヤーダー



D材搬出後の地ごしらえ箇所と拡大枝の山が小さい。



ドローンによる苗木の運搬



民・国参加の造林の低コスト化現地検討会

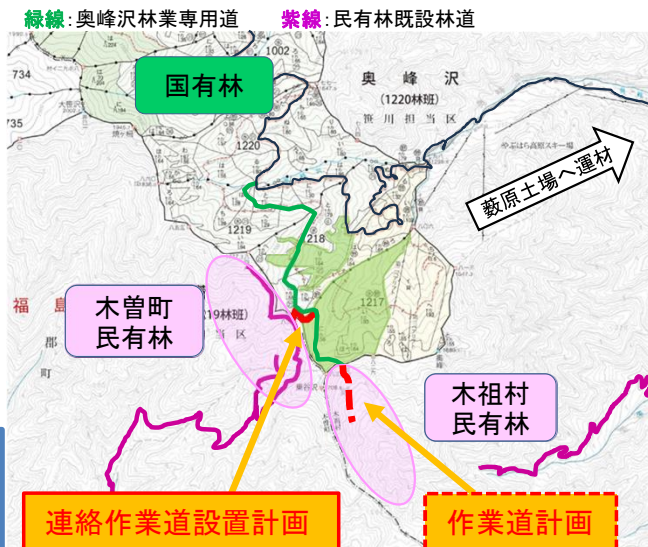
②民有林との連携の推進

- ・ 流域を一つにする、「木曽谷流域森林整備推進協定」(平成25年締結、令和5年4月更新)により、民有林と国有林が連携した間伐等の森林整備や、隣接する民有林と一体となった路網整備、そして林業事業者や技術者の育成・強化に取り組みます。
- ・ 国有林の中間土場を活用し民有林との木材の協調集荷、(安定供給システム販売)を推進します。
- ・ 木曽川の上下流域へ向け関係機関が連携して情報発信に努めます。

●安定供給システム販売とは

需要拡大や流通の効率化等に資するため市場や製材工場等と協定を結び販売する。

供給者……協定量を安定的に出材 需用者……協定価格で買い取り



民有林と一体での路網整備



民有連携した協調出荷(藪原土場)(木祖村)

③木材の安定供給

- ・ 地域における木材の安定供給体制の構築が図れるよう、木材の持続的かつ計画的な供給に努めています。
- ・ 大型の木材加工施設や木質バイオマス発電施設が稼働しており、国産材供給体制の強化は欠かせないことから、需給動向、需要変化を考慮しながら、安定的供給に取り組みつつ森林・林業基本計画の推進及び地域の林業・木材産業の活性化へ貢献します。
- ・ 地域のニーズを踏まえた委託販売、需要拡大や流通の効率化に資するための安定供給システム販売、有利販売、D材販売等に取り組みます。

伐採量 (単位:千m3)			
年度	主伐	間伐	計
6	17.6	62.1	79.7
7	9.0	50.5	59.5
8	25.5	72.8	98.3

販売量 (単位:千m3)			
年度	素材	立木販売	D材
6	57.4	0	2.4
7	49.0	0	1.0
8	62.0	10.6	1.0

システム販売 (単位:千m3)		
年度	数量	うち民有林材
6	33.1	3.2
7	24.2	2.0
8	25.9	2.6

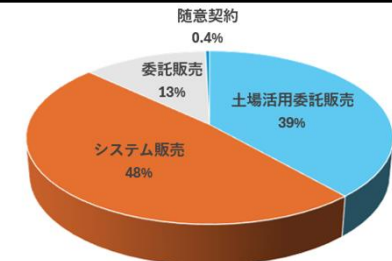
* 素材は南木曽支署生産分含む



委託による有利販売【荻原・小林三之助】



D材の販売



販売方法別販売量(令和7年度実績)

④木材利用の拡大

- ・ 需要者の動向やニーズの把握に努め、山元での採材、土場での仕分け、多様な販売方法等による需要拡大、広葉樹を含めた有利販売に努めます。
- ・ ブランド化した高齢級人工林ヒノキ(林齢80年生以上)「**高**国木曾ひのき」は、市場から高い評価を得ており、引続き利用の拡大と安定供給に努めます。
- ・ 木曽カラマツ戦略において、木曽カラマツ材の生産拡大や安定供給、流通体制の整備、地域内での高付加価値化に取り組みます。
- ・ 木の文化を守るために、大径、長尺などの特殊採材や公共建築物、文化財の修復や伝統工芸などの資材として、天然木曽ヒノキ等の供給を継続します。



委託市に出品された**高**国木曽ひのき

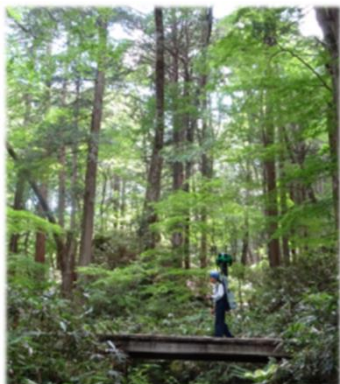


木曽カラマツ活用戦略会議を開催(木曽町)

3 国民の森としての管理経営

① 森林を活用した観光コースの紹介

- ・ 保健、文化、教育の場である自然休養林等のレクリエーションの森について、Googleストリートビューで見られます。
- ・ 中部森林管理局のホームページでは、おさんぽMAPで城山史跡の森コースほか当署が厳選した3コースを紹介しています。



Googleストリートビューでレクリエーションの森を公開



城山史跡の森コース【木曾町】
お散歩マップは体力目安があるので安心

③ 木の文化の継承

- ・ 伊勢神宮の式年遷宮で使用される御神木は「三ツ紐伐り」といわれる方法で伐り出されますが、斧を使用するこの方法は林業関係者でも触れる機会が稀であり、次世代へ継承したい方法です。「木の文化」を支えるため伝統的な林業技術の継承に協力していきます。



令和7年6月3日 第63回神宮式年遷宮御杣始祭(小川入国有林)【上松町】
杣人による御神木伐倒と林大生らによる御神木の引き出し

② 森林を活用した森林環境教育や体験林業

- ・ 国有林を利用した森林教室・体験林業を実施、支援します。
- ・ 「レクリエーションの森」における維持管理に関する協定書(王滝村)では、木道や木橋の維持管理及び環境整備等により持続可能な施設整備を実現しています。



御嶽山麓の遊歩道(木道)整備の様子【王滝村】



林大インターンシップにて森林環境教育の体験実習【木祖村】

④ 国有林野を活用した地域貢献

- ・ 地域活性化への貢献として、マウンテンバイクやトレイルランニングの走行コースとして国有林林道使用しており、大会の全行程108km中75km程度が国有林林道を利用しています。



20年以上前から広大な自然を生かしたアウトドアスポーツ大会が毎年開催
2,000人超の人々が集まる大規模な大会に成長(三浦国有林)【王滝村】

参考資料

木曽郡の森林面積と国有林の割合

単位 面積:ha 人口:人

町村名	区域面積	森 林 面 積				森林比率	人口 R8.3公表値	
		総数	国有林(林野庁所管)					民有林
			国有林	官行造林	計			
木祖村	14,050	12,812	7,830(61%)	—	7,830	4,982	91%	2,467
木曽町	47,603	42,947	12,770(30%)	—	12,770	30,177	90%	9,561
王滝村	31,082	29,751	25,887(87%)	—	25,887	3,864	96%	629
上松町	16,842	15,773	10,816(69%)	—	10,816	4,957	94%	3,808
大桑村	23,447	22,441	17,571(78%)	—	17,571	4,870	96%	3,139
南木曽町	21,593	20,375	14,149(69%)	111	14,260	6,115	94%	3,580
計	154,617	144,099	89,023(62%)	111	89,134	54,965	93%	23,184

(千ha)

	人工林	天然林	その他	計
全体	62.4	72.7	8.9	144.0
うち国有林	36.0	44.6	8.5	89.1
割合	58%	61%	96%	62%

注1 区域面積、その他国有林及び民有林面積は「長野県民有林の現況(令和7年)」による

注2 人口は各町村HPより引用

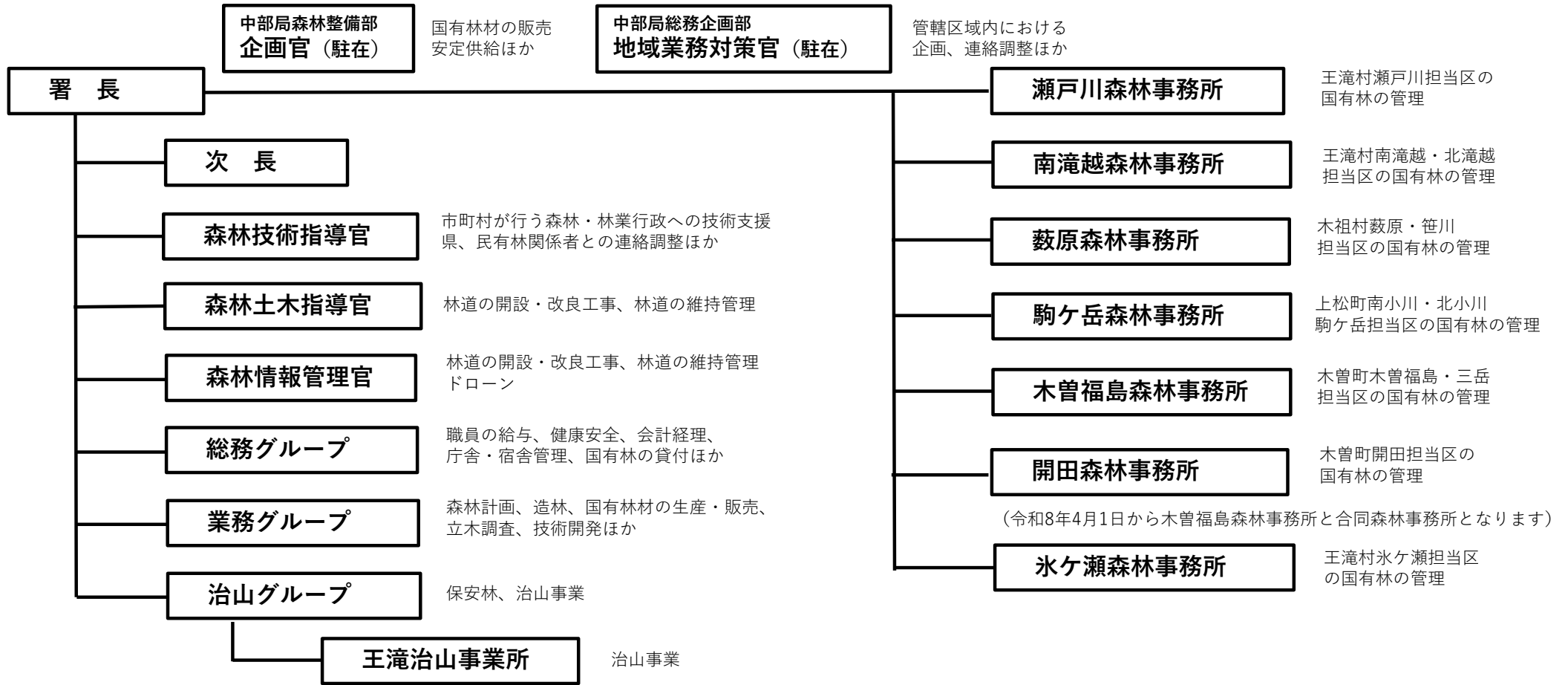
注3 森林面積の国有林()は森林面積に対する比率

注4 気候数値は「国土交通省気象庁」気象データ(2021年~2025年)による

気候

観測地	気温(°C)			年間降雨量(mm)
	最高	最低	平均	
木曽福島	36.1	-14.6	11.4	2,052
開田高原	32.2	-21.0	7.9	2,322
御嶽山	—	—	—	4,073
須原	—	—	—	2,256
南木曽	35.7	-12.8	11.9	2,513

組織



職員数

令和8年4月1日現在

	署長	次長	企画官	地域業務 対策官	森林技術 指導官	森林土木 指導官	森林情報 管理官	総務 グループ	業務 グループ	治山 グループ	王滝治山 事業所	瀬戸川 森林事務所	南滝越 森林事務所	藪原 森林事務所	駒ヶ岳 森林事務所	木曽福島 森林事務所	開田 森林事務所	氷ヶ瀬 森林事務所	計
	1	1	1	1	1	1	1	4	15	3	1	2	1	1	(1)	(1)	1	1	36
(行政専門員)								1					1						2
(非常勤職員)								2	2	1									5
計	1	1	1	1	1	1	1	7	17	4	1	2	2	1	(1)	(1)	1	1	43

* 地域業務対策官は、木曽福島森林事務所に駐在。
 * 業務グループ職員のうち1名は、木曽森林ふれあい推進センターに駐在。
 * 業務グループ職員のうち1名は、駒ヶ岳森林事務所に駐在。
 * 業務グループ、育児休業1名含む。